

平成16年度

鳥取県青少年育成アドバイザー協議会総会

日時 平成16年6月13日(日)  
場所 鳥取県立倉吉体育文化会館  
出席者 西田県民会議事務局長・山本・田中・  
岩崎・清水・西浦・新川・井上・門脇・  
東・藤井・坂本・上田・芳村・(川口)

山本会長の挨拶より

就任以来、「開かれた会」「皆で運営する会」を目指して来た。

健やかに伸びる青少年のことは、余りメディアに出て来ない。しかし、青少年活動は行なわれている。それに関わっている我々も捨てたものではないと思う。小学6年生が同級生を殺したり、倉吉でも中学生の母親を友達と殺そうとした事件など深いものを投げかけられている。

どれも、親と子のあり方が問題で、キーワードは「絆」だと思う。親と子・先生と児童・友達同士など。「愛」というより、「絆」の方が分かり易い。その絆が切れ易くなっている。もしかしたら、つながっていなかったのかも知れない。

これからも、私達は何をしなければいけないのかを考えていきたい。そして、何処に行っても「こんなことをしているよ」と誇れるような自分でありたい。

西田県民会議事務局長より

青少年の不安定さが色々な事件として現れているが、その原因として、親や家庭の不安定さがある。もっと子ども達の動作に目を向けていかなければならない。

新メンバー及び休会よりの復帰者を迎え、現在24名の会員となった。出席者が、自己紹介し近況を一言づつ話す。

どの人からも、地域のおじさん・おばさんパワーがみなぎり、頼もしい仲間たちの新たな「やる気」が感じられた。

平成16年度活動方針・活動計画

## 1 現状と課題

青少年の健全育成は、古来からいつの時代も地域や国家の重要課題であった。現代社会も同様であるだけでなく、急激な社会変化は青少年の生活や価値意識、将来への生き方など様々に強い影響を与えており、深刻な問題を露呈している。

とりわけ、イラク戦争をはじめ国際紛争のさ中にある国々の青少年問題は深刻であり、当事国はもとより、その影響を受ける国側も影響は大きい。それ故、わが国の青少年の国際貢献も重要な課題である。

国内では、非常に長く続く不況や、財政難に伴う政府や地方自治体の青少年施策の後退などに加えて、経済最優先の価値観や情報化社会の進展、児童虐待や子殺しと親殺し事件、大人の倫理観やモラルの低下に伴う各種犯罪の増加、更に政治不信をはじめ国民の指導的立場にある人々の不祥事など、青少年を取り巻く環境は益々悪化しており、これらが青少年に与える影響は極めて大きく、これらの改善も急務である。



さらに、犯罪とはならないまでも多様な価値意識の中で自己中心に判断して行動する青少年や、自分の将来に夢や希望を持つことのできない青少年が増加し、その日の楽しさだけを求める少年の姿は憂慮に堪えない。青少年が4無主義とか5無(ゴム)人間と言われて久しく、体力の低下も進行している。それだけに、自分で課題を見つけ、それを自分の判断で解決できる心身共にたくましい児童・生徒の育成や、正しい事は勇気をもって実践する力、即ち「生きる力」を身に付けた青少年を育てることは、今や国家的課題であり、「生きる力」を活かして自己実現を図りながら、社会に有意な役割を果たすことのできる青少年を育成することは、我々現代社会に生きる大人の責任である。

(裏面に続く)

又、少子高齢社会と過疎化減少は益々進行し、国や郷土の次代を担う青少年への期待と役割はいやが上にも大きくなっている現状である。

この課題を克服するためには、青少年自身が自ら生きる目標を持ち、自立した社会人として成長する力を身に付けることに加えて、青少年を取り巻く様々な環境を改善することが必要である。そのため家庭・地域・学校のそれぞれが持つ教育力の向上を図ると共に、3者が連帯共同した健全育成運動を展開する必要があり、さらに青少年に好ましくない社会環境の浄化運動も不可欠である。

これらの現状と課題は、我らの郷土鳥取県にあっても例外ではなく、一つ一つ具体的な取り組みが求められており、我々青少年育成アドバイザー協議会もその一翼を担って積極的に運動を展開するものである。



## 2 基本方針

以上のとおり現状と課題を認識する我々は、課題解決に向けて運動の基本方針を次のとおりとする。

(1) 青少年育成国民会議、並びに県民会議の育成運動と連帯して運動を進める。

- ①「青少年の地域社会参加活動」の推進
- ②「大人が変われば子供も変わる」運動の推進
- ③「地域のおじさん・おばさん運動」の推進
- ④環境浄化運動の推進

(2) 全日本及び中四国協議会の仲間と連帯して運動を進める。

(3) 日常生活の中で気付いた身近な課題と取り組み、具体的な活動を通して育成運動を展開する。

(4) 会員の拡大と資質の向上に努める

## 3 活動方針

本会規約に定める目標実現のため、次のとおり運動の活動方針を設定して身近な鳥取県内での育成運動を展開する。

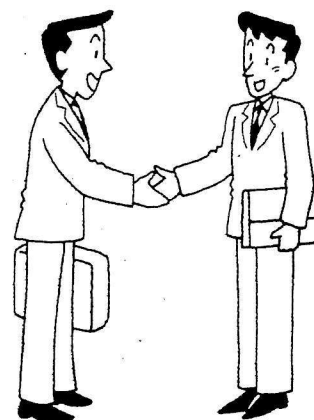
(1) 我々は、自分の職業を通して、青少年の育成運動に参加する。私達はそれぞれ職業を

持ち、その職業の中で青少年と接する機会を持っている。仕事の中での関わりは自然であり、専門分野での関わりであるため、人間関係も信頼関係も作りやすく、影響力も持ちやすい。又、同僚をはじめ周囲の大人に対しても青少年育成への理解・協力を求めることも可能である。

(2) 我々は、自分の日常生活を通して、地域社会の中で青少年の育成運動を推進する。私達は、家庭があり地域社会の中に生きている。そこには地域の生活があり人間関係があり行事もある。「隣のおじさん、おばさん」として、できることはたくさんある。この身近な所に積極的に活動を求めてゆくこととする。

(3) 我々は青少年育成関係機関・団体と連携・協調し、共同して運動を推進する。行政機関や公民館、町民会議をはじめ、子ども会やPTA活動ほか様々な関係機関・団体が青少年育成に関する活動をしており、私たちの参加を待っている。我々が身に付けた力をこの中で生かすことは十分に可能である。

(4) 我々は、自己研鑽につとめ、会員同士が切磋琢磨して向上し、一致協力してこの運動を推進する。青少年育成に関する課題や問題点はいつも変化している。会員個々の人間性や資質を高めるには普段の努力が必要であり、自己研鑽だけでなく、共通の目標に向かって会員同士の切磋琢磨が重要である。



「はじめまして、新人の上田です。」

上田敏夫

早速の原稿依頼で、眠い目をこすりながらパソコンに向かっています。

2年前 友人の坂本氏に誘われて青少年育成アドバイザーの講座を受講しました。8冊のテキストと3泊4日の研修は宝となりました。宝の持ち腐れにならないようにしたいものです。

テキストを読み進んでいくうちに己の持っていた青少年育成の考え方に変化が出てきたことは大きな収穫でした。どの子も「人間らしく育てほしい。」ということなのです。

青少年活動は地域おこしだ。  
地域のそこに住んでいる子供たちがいきいきしていない地域は未来がない。子供たちの未来はいつの時代でも輝いていなくてはならない。子供たちに未来が無いということは不幸である。そう思いながら子供たちと付き合い暮らしています。

みんながいい人になりたがる  
いま、私も含めての話だが、世の中に「いい人風」の人間が多すぎる。自分のテリトリーの中で一見仲良さそうに、自由そうに暮らしているけどそこが孤独という檻の中だと気づいていない。人のテリトリーに踏み込まない方が争いも起こらない。衝突が無いから楽である。でもそれでいいのかという疑問が残るのです。

地域でPTA役員や主任児童委員として動いていて、おかしい、これでいいのかという場面に遭遇します。ここで「お小言」を言わなければいけない、言いたいと思うが、時に中々それが言えない。最近、お小言を言う役目を担う人が必要だと感じていて、小学校の校長先生に言ったりするんですが「上田さん、お願いします」といわれると腕組みをしてしまう。でも少しずつ覚悟なるものができてきた。いじわるじいさんに挑戦してみようという気がでてきた。青少年育成の現場にそういう配役をしなくてはならないが、誰もそんな嫌われ役をひきうけてくれない。

アドバイザーのみなさん少しシャレたいじわるじいさん、ばあさんを目指しましょう。

幸せに暮らしたい

「古き良き時代」という言葉がありますが、家庭内労働の洗濯も全自動、食器洗い器、ハウスクリーニング、一家に数台の自動車、携帯電話などの情報機器が発達し、コンピュータによる省力化により生活も豊かになったと思っている。でも幸せになっているとは思えない。物は豊かになったけど（世界には餓死している人もいますけど）、心のありようはどうなんだろう、自問の日々は続きます。

「新しき、良き時代」を作りたいものです。仕事は不景気です。デザインやイラスト、まんがの仕事がありましたらおねがいします。

追伸

6月24日、青少年育成町民会議の席でアドバイザーの講座案内をしましたが反応はいまいちでした。



#### 編集後記

今年度も通信を担当させて頂くことになりました。宜しく願いいたします。

先日の総会で鳥取大会報告集を頂きました。大会テーマ「聞こえていますか子どもの声・伝えていますかあなたの心」を久し振りに目にしましたが、すごく新鮮でした。子どもだけでなく、家族の職場の、そして私たちアドバイザー仲間同士の声をきちんと聴くことが、コミュニケーションの第一歩だと思います。そして自分の気持ちも伝えましょう。

そんな役割が果たせる通信であって欲しいと願っています。